

Tip  
5

## 「自分の英語力」の範囲内で書ける内容を考える

最初にも書いたとおり、どんなに立派でユニークな内容でも、肝心な英語がお粗末では高得点は望めません。「何を書こうか？」をまず考えるから、それを英語でどう表現するのか悩むのではなく、「**自分が英語で書けそうもないことは書かないようにする**」(書けそうもない話題は避ける)のが鉄則です。

もちろん**日頃の学習の段階では、そうした「逃げの姿勢」をとる必要はありません。つづりの怪しい語を辞書で確認したり、どう言うかわからない用語や表現を和英辞典を使って(あるいは本書を使って)調べ、それを覚えるように努力すべき**でしょう。ただ、本番の入試では原則辞書は引けませんので、「減点されるリスクのあることは書かない」ことをお勧めします。具体的には、

## (1) つづりが怪しい単語・自分が使いこなせない表現は避ける

形容詞や動詞なら、ぴったりの表現が思いつかなくても、簡単な類義語に置き換えたり、反意語を否定して表現したり(例えば「浅い」を「深くない」と言い換える)といった「逃げ道」が使える場合もあります。厄介なのは、名詞(特に固有名詞)で、これは避けるわけにはいきません。「2月」(February)という単語のつづりに自信がないからといって、まさか the second month of the year と書くのはさすがに抵抗があるでしょう。**その単語を使わなくても済むように書く内容そのものを多少変える必要**が出てきます。

よく、やけに難しい形容詞や動詞を使って書いた学生に「こんな難しい単語を使わなくても、もっと簡単なこういう単語があるでしょ？」と

指摘すると、「でも先生、その単語はその数行上で1回使っているのに、同じ単語はなるべく繰り返さないで言い換えたほうがいいんじゃないですか？」と反論されますが、英文を書いて生計を立てているような英語のプロは別にして、所詮大学入試の英作文で、**同じ単語を複数回使うこと自体はまったく問題ないはず**です。むしろ無理に反復を避けようとして、普段使い慣れていない単語を書いて、つづりや語法を間違えるほうが減点のリスクがもっと高くなるでしょう。

## (2) 表現できない内容は避ける

自分の体験や意見を書く場合についても、書こうとする内容を頭の中で列挙して、**英語で表現できそうもないことは始めから書かないようにすべき**です。以前、学生に「自分の行きたい国とその理由」というテーマで英文を書かせたら、「アメリカに行ってブロードウェイの芝居を生で見たい」という趣旨の英文を書こうとした学生がいましたが、結局「生で」の部分がうまく表現できていず、不自然なわかりづらい英語で書いてありました。ある表現を自分の英語力で書けそうかどうかは、書く前にちょっと考えてみればわかるはずですから、そういう場合は書かないで済むように話を組み立てるか、まったく別の内容を書くか、書く前によく作戦を練るべきなのです。